

請願第6号「鷹の台駅前広場整備について、市と市民が協働する場を設けることについて」に、小平・生活者ネットワークを代表して反対の立場で討論を行います。

本請願は、鷹の台駅前広場整備について、市が2020年8月に開催した事前説明会の開催や三菱UFJ銀行跡地の暫定整備にあたり、告知が駅周辺の一部限定的な範囲にとどまっており周知徹底が足りなかったとして、様々な市民が協働する場を設け、市民の声を聴き事業を進めることを求めるものと理解しています。

生活者ネットワークでは、これまで市民自治・参加・協働を市政の多くの場で求めてきており、今回の請願内容についてはできる限り理解したいという想いで審査に臨みました。

しかし、審査のなかでは、この請願がどの時点からの、また市の事業のどの部分での協働を求めるものなのか、「駅前広場」の範囲と「整備」のプロセスの時期や範囲について、駅前広場の道路部分を含めたゼロベースからの検討になるのか、緑地や歩道部分の植栽やベンチの配置、維持管理などについて協働していくのかなど、多くの会派の質問をもってしても、残念ながら請願の求める内容や意図が最後まで明らかにはなりませんでした。

また、今回の請願では緑地や憩いの場の機能の保全について述べられていましたが、その機能はもちろん大切なものです。しかし、現在たかのだいエリア全体のまちづくりの視点で見た場合、小平中央公園や玉川上水に加え、新たに鷹の台公園の整備も予定されており、生活者ネットワークとしては鷹の台駅前広場の整備において最も優先されるべき課題は「安心・安全な交通拠点の整備」であると考えます。

鷹の台駅前においては駅前にロータリーを含む広場がないことで、とくに高齢者や妊婦、子どもなどが駅を利用する際の安全性の確保や車での送迎が難しい環境が長年にわたってありました。そのため、速やかな交通広場としての整備が多く市民の願いであると捉えていることから、請願の求める内容もあいまいななか、事業が停滞、遅延してしまうことは避けるべきと考え、今回の請願に反対するものです。

一方で、これまで市として市民の声を聴きつつ事業を進めてきているというものの、市の住民説明会の周知は範囲の選定を含めて充分であったとはいえませんでした。

コロナ禍のなか周知や説明・対話の場の創出は普段以上に難しかったことは理解しますが、多様な市民の声を集めるための、とくに近隣住民や駅を利用する市民への周知は足りていなかったと感じます。今後は現地や駅前でのビラ配りや立て看板等による告知も含め、周知の範囲や方法など再検討し、事業について説明するオープンハウスやパブリックコメントについても、より多くの人に情報を届けられるよう徹底すべきと考えます。今後7月にも予定されているオープンハウスのなかでも、市民の意見を丁寧に聴き、是非これからの事業で活かせる部分に関して、市民との対話や協働の機会は可能な限り作っていただきたいと要望いたします。

さらに今回のような道路整備においては交通管理者である警察署との調整が必要であり、審査のなかで2年もの調整期間を経ていることが明らかになりました。専門的な部分や法律上の観点から市民が思うような形にならないこともあることや、市と警察署間での調整の途中経過なども適宜市民に分かりやすく

知らせていく工夫や努力も、是非していただきたいと思います。

最後に、審査においても、またこれまで一般質問や請願第5号の旧佐川邸の公園整備の討論の際にも申し上げてきたことではありますが、ある場所の開発が行われる際、その場所の課題や優先順位、どのような場所にするか、市と市民で目的やゴールのイメージ、お互いの役割分担も含めてまず話し合うこと自体が協働、市民自治につながると考えます。市には周辺住民をはじめ市民がどのような場所を望んでいるのか幅広く耳を傾け、そしてお互いの意見を聴き合い、役割を考える場を創ることから始めていただきたいかっと思っっています。

こうした最初からの丁寧な説明や話し合いの場を設けることは時間も労力もかかることではありますが、今回の件に関していえば、少なくとも旧三菱UFJ銀行跡地を取得し駅前広場事業が本格的に見えてきた段階で、この事業について多くの市民に周知し話し合う機会が持てていれば、このような請願が出ることもなかったのではないかと、非常に残念に思っています。

今後は是非こうしたプロセスを大切に、市民との対話の場を設けることを積極的に考えてほしいと強く要望いたしまして、反対の討論といたします。